

「未来の縁台」コンテスト結果報告

主催：徳島県建築士会徳島支部

徳島県建築士会徳島支部が、本年9月に「未来の縁台」のアイデアコンテストを実施したところ、92作品のご応募をいただきました。ご応募、ご協力いただいたみなさまには深く感謝致します。

応募作品を厳正に審査した結果、以下のみなさんが受賞されました。12月22日(水)～26日(日)まで、アミコ東側2階デッキで開催します「アミコの縁が輪」において受賞作品のパネル展示を行うとともに、最優秀賞の「ひょうたんポケット」と優秀賞の「相席縁台」は実際に制作して展示しております。寒い時期ではございますが、ぜひお立ち寄りいただき、それぞれの作品を体感いただければと思います。

※敬称略

最優秀賞	「ひょうたんポケット」	吉田 充希・梅田 倖和・加藤 愛理・新野 美優（徳島大学）
優秀賞	「黄金の縁台」	白木 里実（徳島県立科学技術高校）
	「渦巻く縁台」	吉田 充希（徳島大学）
	「エンダイ（エンジョイ）しよう」	三木 望（阿南工業高等専門学校）
	「相席縁台」	森 悠成（阿南工業高等専門学校）
	「Fan Fan Fan」	西岡 功太郎・森 舜瑛・廣畑 佑丞・藤見 蒼輝（徳島大学）

※「ひょうたんポケット」は建築士会徳島支部有志で製作

※「相席縁台」は阿南工業専門学校のみなさんで製作

※ 制作にあたり徳島県木材協同組合連合会よりご協力をいただいております

<コンテストの趣旨は以下の通りでした。>

かつては徳島市内でも、家々には縁側という日だまりに、人と人が自ら出会い談笑するつながりの場がありました。さらに、夏の宵は、隣近所が夕食を終えて縁側の代わりに可動式の縁台を玄関先に出しての夕涼みが、普段の暮らしの中で行われていました。しかし、新しくできる住まいからは縁側が消え、縁側の代わりにしていた縁台もなくなり「夕涼み」の光景も、見られなくなりました。やがて、人と人のふれあいがなくなり、地域の人間関係が希薄になり、淋しい思いをする人々が増え、高齢者や子どもにも、生きにくい状況を生みだしています。

今の希薄化した人間関係を結びなおし、コミュニティの再興を図り、豊かなものとしていくには、ヒト・モノ・コトがゆるやかに行き交う場が必要です。それは単なる空間としての場所ではなく、ヒトとの出会い、楽しみや食べ物、伝統行事や自然環境など、さまざまなヒトやコトやモノが行き交い混ざり合い、人間関係がより豊かになる「第三の場(サードプレイス)」です。そこを「まちの縁が輪」と呼び、コミュニティ再興を目指す地域からの静かなムーブメントとして、日常の暮らしの中に広めていく必要があると考えます。

今回の募集内容は、上記の主旨を理解していただき、「縁が輪」活性化装置としての「未来の縁台」づくりのアイデアを提案していただきました。人がつどい、心をかよわせ、つながる場を育みながら、相互につながりあう装置としての「未来の縁台」です。